

♪コーラスめっせ2010 幕開けのコンサートは、「春」をテーマにした曲を集めてみました。

1. 合唱団ことのは【混声・大阪】指揮：高嶋昌二 ピアノ：藤澤篤子

混声合唱とピアノのための「この星の上で」から はる・今年(谷川俊太郎作詩・松下耕作曲)

解説：5年前、私は人生のどん底にいた。進むべき道は見えず、堂々めぐりと自暴自棄を繰り返していたある日、作曲家自身が指揮する「今年」を初めて聴いた。「涙があるだろう・・・」と歌い出された冒頭から私の涙腺はゆるみ始め、終盤の「生きてゆかぎり いなむことのできぬ希望が」という鮮烈なメロディーに、私はあふれる涙を抑えることができなかった。「人はどんなに苦しくても、生きてゆかぎり、拒むことのできぬ希望があるのですよ」という詩人のつぶやきに、私は救われた。そして今、その思いを共感してくれる合唱団と共に「今年」を歌える私は、本当に幸せである。

(高嶋昌二)



昨年2月、「合唱団ことのは」が誕生しました。言葉を大切にしたい合唱団にと指揮者高嶋先生が名づけて下さいました。高校生から70代までの幅広い年齢層で構成され、一周年を迎えた今、少しずつお互いの気心がわかってきました。毎回、息の送り方、言葉の処理に悪戦苦闘している私達ですが、淀工グリー出身者の多い男声にうっとりしながら声をのせていく醍醐味・・・仕事の疲れを忘れさせてくれます。曲紹介にもありますように「今年」は高嶋先生にとって思い入れの深い曲です。未熟な私達にとっては難曲ですが、それぞれの思いをこめて熟唱したいと思います。



高嶋昌二 (指揮者)
PIブレ企画参照。



藤澤篤子 (ピアノ)
PIブレ企画参照。

2. 合唱団「さくら」【混声・大阪】指揮：清水 遼

混声合唱のための「ア・カペラエチュード」から ななくさ・ゆきがとける・おやすみ(阪田寛夫・まどみちお・工藤直子作詩・松下耕作曲)

ア・カペラ混声合唱のための「ELEGIA」から 春のガラス(北園克衛作詩・木下牧子作曲)

Axuri Beltza(J.Busto作曲)

無伴奏混声合唱のための「7つの子ども歌」から ていんさぐぬ花(信長貴富編曲)

解説：「ななくさ」「ゆきがとける」「おやすみ」この曲集は合唱団の読譜力とソルフェージュ能力を高め、指揮者の音楽的洞察力の向上に役立つように作られました。本日は馴染みやすいメロディと優しい歌詞の曲を選びました。『春のガラス』北園克衛の美しいガラス細工のような詩の世界に、透明感溢れる神秘的なハーモニーの曲。『Axuri beltza』スペイン、バスク地方の民謡にブストー特有のハーモニーとリズムが見られ、少女が歌いながら踊っているような楽しい一曲。『ていんさぐぬ花』『ていんさぐ』とは沖縄の言葉で鳳仙花のこと。曲を通して「うや」という歌詞が出てきますが、それは「親」という意味です。「ていんさぐの花は爪に染め、親の教えは心に染めなさい」と、ものに例えながら子供を悟す教訓歌となっています。



高校生、大学生、社会人etcの合唱好きが集まりました。運営や練習はおもに高校生、大学生で進め、新しいことにもどンドン挑戦しながら、歌い手が自立した団を目指しています。今回のステージは、泉州を中心に活動している合唱団桜と、色々な合唱団で活動している有志が集まってできたEnsemble vocceとの合同チームでの参加です。一緒に歌ってくれる仲間は随時募集中!あたたかい歌の輪を広げていけるよう、これからも自主的・前向きに活動を進めていきます。

清水 遼 (指揮者)

中学三年生の時に岸和田市立桜台中学校有志合唱団で合唱と出会い、卒業してからは有志合唱団の仲間と合唱団桜を結成。現在も活動を続け、昨年度よりコーラスマスターとして指揮者を務めている。現在、大阪芸術大学芸術学部演奏学科管弦打コース、サクソフォン科在学中。「合唱団桜」「Ensemble vocce」「合唱団ことのは」に所属。



3. 日吉台合唱団【女声・滋賀】指揮：曾田俊和 ピアノ：鈴木淳子・山口敦子

女声・同声合唱曲集「地平線のかなたへ」から 春に(谷川俊太郎作詩・木下牧子作曲)

女声合唱とピアノのための「三つの優しき歌」から 爽やかな五月に(立原道造作詩・新実徳英作曲)

女声合唱とピアノのための四季のうた「7つのバガテル」から 会話(川崎 洋作詩・高嶋みどり作曲)

解説：『春に』中学校の合唱コンクールの課題曲にもなり、「青春という時代の輝きと憧れと不安」の気持ちさがストリートに伝わって来る作品。『爽やかな五月に』『私はおまえを愛してゐる』『おまえは私を愛してゐるか』24歳でこの世を去った立原道造が、恋人水戸部アサイに言えなかったその思いを叙情的な美しいメロディーで際立たせた。『会話』『7つのバガテル』の中の1曲で、季節の色合いや、自然の息吹、日本的な情緒や風情といったものがさりげなく描かれ、詩のリズムと音楽のリズムが不思議なほどにマッチした作品。



日吉台は霊峰比叡山を仰ぎ、眼下に日本一の琵琶湖を眺める美しい所に在り合唱団は1982年に公民館活動の一つとして発足しました。現在は天津市だけでなく広い地域から、幅広い年齢層の歌の好きな女性が集まり、いろんなジャンルの曲にチャレンジし楽しく歌うことをモットーに、地域の「文化祭・クリスマスコンサート」関西合唱連盟や天津市合唱連盟の様々な行事等に参加しています。又天津市と姉妹都市であるスイスのインターラーケン市、ドイツのヴュルツブルグ市に親善訪問演奏を行い姉妹都市との交流を深め、合唱を通じて団員の親睦を図り、合唱音楽の向上を目指しています。ここらがくちびるがうごいたらさあ、あなたも一緒に歌いませんか？



曾田俊和 (指揮者)

京都産業大学経済学部卒業。京都産業大学グリークラブ第18代学生指揮者。グリークラブ在籍中に吉村信良氏より合唱指導を学ぶ。指揮法を伊吹新一氏に師事。「日吉台合唱団」「男声合唱団ARCHER」指揮者。京都産業大学グリークラブ技術顧問。1989年より日吉台合唱団を指揮し、1995年～2001年まで7年連続及び2005年、関西合唱コンクールで金賞を受賞。



鈴木淳子 (ピアノ)

京都市立芸術大学音楽部ピアノ専攻卒業。岩瀬洋子氏に師事。日吉台合唱団でコンクール、クリスマスコンサート等の伴奏をつとめる傍ら他合唱団の伴奏者としても活躍している。

4. 女声合唱団コール・ブリランテ&アンサンブルDolce & コールpiù

桜の下で(若松 敏作詩・作曲)

【女声・大阪】指揮：福田美保 ピアノ：佐々木裕子

さくら(信長貴富編曲)

女声合唱曲集「うたをうたうとき」から 春(新川和江作詩・信長貴富作曲)

「唱歌の四季」から 朧月夜(高野辰之作詩・岡野貞一作曲・三善 晃編曲)

解説：『桜の下で』子供たちを育みその成長を見守りつづけてくれた大きな桜の樹に思いを寄せた誰もが口ずさみたくなる曲。『さくら』海外でも良く知られている日本古謡。信長貴富氏によって、愁いを含みつつ淡く薫るようにと新鮮なアカペラで編曲されている。『春』『わたしはもう悲しむまい…』とユニゾンで始まり美しい旋律が私たちが深く引き込んでゆく。地球上に生きるすべての生命の尊厳を描き、恵みの春への感謝と未来への希望が高らかに歌い上げられている。『朧月夜』親しみのある風景を巧みに生かしながら優美に旋律と絡み合い夕暮れから夜への時の流れを見事に表現している。三善晃氏の素晴らしい編曲により情感が豊かに甦る。



来年15周年を迎えます。透明で美しく心に響くハーモニーをめざしています。指揮者の細やかで、情熱のこもった音楽づくりはずっと変わりなく、いつもパワー全開です。今日是指導者と同じくする姉妹合唱団の合同で共に演奏できる喜びを春の曲に託して歌います(ブリランテ)。2004年 基本に戻って始めたヴォイストレーニングの仲間六人で自然発生(?)致しました。心にしみる美しいハーモニーをオシャレに表現出来るようアンサンブルをこれからも楽しんで参りたいと思っております(Dolce)。小学校や地域の音楽会を中心に活動しています。少人数で、いつもアカペラの曲が中心の私達ですが、今日はステキな伴奏もあり、大勢で歌える喜びを心ひとつにして味わいたいと思います(コール・Più)。



福田美保 (指揮者)

武庫川女子大学音楽学部声楽学科卒業。ハンガリーカントムス国際合唱指揮者コースにてデーネシュ・サボー氏に師事。ディプロマを取得。教員を経て「女声合唱団コール・ブリランテ」「アンサンブルDolce」等の合唱指導、ヴォイストレーナーとしても活躍している。「女性指揮者の会」の代表として、会員と共に合唱のあり方を求め活動を広げている。



佐々木裕子 (ピアノ)

大阪音楽大学音楽部器楽学科ピアノ専攻卒業。同大学伴奏助手を経て、合唱団、声楽の伴奏を務める。現在「塩瀬混声合唱団」「摂津混声合唱団」等の伴奏を受け持つ。高嶋宏子・不二樹紀子・梅本俊和(伴奏法)に師事。社団法人全日本ピアノ指導者協会会員。

5. エコーかたしお【女声・奈良】指揮：当麻礼子 ピアノ：本多玲子

女声合唱曲集「新抒情三章」から **もうすぐ春だね**(両角享子作詩・萩原英彦作曲)

女声合唱曲集「落葉松」から **あなたとわたしと花たちと**(峯陽作詩・小林秀雄作曲)

女声合唱とピアノのための「空の名前」から **夕焼け**(高田敏子作詩・信長貴富作曲)

解説：幼い頃口ずさんだ懐かしい童謡。私達の心の故郷。春をまつ素直な気持ちが、胸おどります。『もうすぐ春だね』合唱コンクールの選択課題曲として好評をもって迎えられた作品。北国の春を待つ実感を美しい言葉に誘われ、色彩豊かなピアノに支えられ、みずみずしい感動を抱く。『あなたとわたしと花たちと』1976年作品。フォークソング調の曲、若いカップルの結婚を祝って作られた“門出のうた”同時に“春のうた”明るくのびやかに、生命のリズムが輝く。『夕焼け』夕焼け空のようにゆったり広がる歌声に、ピアノから聞こえてくる懐かしい旋律が滲む。平和への静かな祈りが夕焼け色とともに、強く胸に焼きつくように演奏がしたい。



1978年大和高田市片塩小学校PTAコーラスとして発足し、合唱活動を開始。82年「エコーかたしお」に改名。この年奈良県合唱連盟に加盟し、第20回合唱祭より27年連続出場しています。また第35回大会から創設された合唱祭賞を13年連続受賞。全日本おおかさんコーラス全国大会には10回、関西支部代表として出場し、1997年・2007年・2009年に「ひまわり賞」受賞する。1991年には、大和高田市より「教育功労賞」を受賞する。2000年11月国民文化祭(広島・呉市)に参加。また、地域での合唱交歓会や少年院・福祉施設への慰問演奏など、「心の和を大切に、明るくのびのびと、合唱を通して親睦を深めると共に、心の豊かさを高めていく事」を目標として活動を続けています。創設以来の指揮者、当麻礼子先生のもと透明な響きを求めて、日々練習に励んでいます。これからも「かけがえのない仲間と共に」合唱に夢を託したいと思います。



当麻礼子 (指揮者)

大阪音楽大学音楽学部声楽卒業。横田浩和・三井ツヤ子氏に師事。卒業後「女声アンサンブル エコ・エレガント」(顧問浦山弘三氏)にて、年1回のリサイタルをはじめ、邦人作曲家の作品研究会、チャリティーコンサート等数多くのコンサート、テレビ、ラジオに出演。昭和50年大阪文化賞奨励賞受賞。平成3年大和高田市教育功労賞受賞。全日本おおかさんコーラス全国大会に10回出場。「エコーかたしお」をひまわり賞受賞に導く。



本多玲子 (ピアノ)

大阪音楽大学附属音楽高校を経て、同大学卒業。日置智恵子、梅村ひとみ、田中トーマン各氏に師事。奈良交響楽団、エウフォニカ管弦楽団とピアノ協奏曲を共演。ジョイントリサイタル、サロンコンサート、伴奏等演奏活動を行う。

6. アンサンブルVine【混声・京都】指揮：伊東恵司

無伴奏混声合唱曲集「季節が僕を連れ去ったあとに」から **小鳥・花びら・記憶・夕焼け・空の魚・青・風**(寺山修司短歌・信長貴富作曲)

解説：『季節が僕を連れ去ったあとに』日本の合唱界に大きな影響を与えた『季刊・合唱表現』(松下耕責任編集)に(07年近辺)連載されていた信長貴富の隠れた?名曲連作です。寺山修司の短歌の世界を合唱で表現する...という非常に実験的かつ難易度の高い取り組みでもありますが、サウンドスケープの音場を含めて、様々な合唱技法を駆使しつつ「季節と人生の邂逅と相克」が描かれています。言葉や瞬間の切り取りと反復、メロディーの余白サウンドに溢れ出す強い抒情、その残像や余韻、連鎖という形式での合唱表現は斬新で強いインパクトを持っています。実はまだ未完(らしい)。現時点の全曲連続演奏となります。



過去には宝塚国際室内合唱コンクールで金賞受賞(20周年グランプリ大会総合3位)、最近ではコンクールの全国大会(09年日本放送協会賞)に出場させてもらっていますが、普段は京都の鴨川近辺で、指揮者の都合に従い不定期に集まりながら大らかにアンサンブルを楽しんでおります。昨年は京都での「アルティ声楽アンサンブルフェスティバル2009」に出演、今年は3月に福島県郡山での「全国合唱祭」に参加させてもらい大きな刺激を受けてきました。『Vine(ヴァイン)』とは『葡萄の蔓』という意味です。葡萄の蔓がしなやかにのびていくように音楽を通して心が広がると、人と人とが繋がっていくこと、...その「ぬくもり」を大切に活動していくことが目標です。

伊東恵司 (指揮者)

99-09までに出場した全日本合唱コンクールでは「なにわコラリアーズ」の10年連続金賞を始め15個の金賞を受賞。宝塚国際室内合唱コンクール20周年記念大会グランプリを獲得。現在は、全国各地で審査員や合唱指導を引き受けるほか、「アルティ声楽アンサンブルフェスティバル(京都)」「コーラスめっせ(大阪)」の主催、市民参加型合唱劇のプロデュース、児童合唱やわらべ歌のプロジェクトを企画する等「合唱」に関する多彩な仕掛けを行なっている。



7. 公募混声合唱団

P1をご参照ください。

8. 公募女声合唱団